

私と外国語

韓国語を学んで

国際コミュニケーション学部3年
富川明日香

私は、大学から韓国語を学習し始めました。大学からの勉強でも理解しやすく、韓国語は学びやすい言葉であると思う点が多くあります。まず、韓国語は英語のローマ字のように、母音と子音を組み合わせる形であるため、母音と子音を覚えてしまえば、なんとなく書くことができます。また、韓国語は英語と違って、日本語と主語や動詞などの語順が酷似しているところも学びやすい点であると思います。発音も英語の単語などより簡単であると感じます。単語の意味などは勉強して覚えるしかないですが、ハングルを見て発音するのみであれば、比較的簡単にすぐできるため、読み上げれば韓国人に大抵伝わると考えて良いと思います。特に、コンピュータやチョコレートなど、カタカナ言葉などは、発音してみるとそのまま意味と酷似していることが多いため、すぐ意味を理解することができるものもあります。そして、最近はスマートフォンでも韓国語のキーボードを登録すれば、簡単に使用できるため、スマートフォンで辞書なども使えるし、LINEやカカオトークというアプリで、日本はもちろん韓国にいる人とも韓国語でのやりとりが簡単に行えます。このような点から、学習しやすい環境もあるといえると思います。

私は2011韓国フィールドワークに参加した

時に、初めて韓国に行きましたが、日常的な飲食店や買い物をする際の店員さんとの会話も少しでき、現地の大学生との交流の際も簡単な自己紹介などができて、韓国語を勉強していたことで、より楽しむことができたと思いました。その後、旅行で訪れた時もハングルを読むことができることで行動しやすい点などもあり、大学で韓国語を学習できて良かったと思います。

僕のドイツ語の勉強の仕方

文学部3年 森 康介

ドイツ文学専攻3年の森です。ここでは外国語を勉強する際、実践していることを紹介していきます。

1、電子辞書ではなく紙辞書を使用する。

電子辞書はすぐに調べられるうえ、常に携帯できます。しかし、このメリットに頼りすぎると、自分で覚えようという学習意欲の妨げになります。

一方、紙辞書は重くて持ち運びに不便なうえ、電子辞書に比べ調べるのも時間がかかります。しかし大事なことは「調べる時間を短縮するためには、調べる回数を減らすにはどうすればいいか？」という事を考えることだと思います。では、どうするのか。



まず、「一回調べた単語はマーカーで塗る」ことです。この作業をすることで、2回目以降その単語を引いた時、以前に調べたことが分かります。このとき、「もう2度と調べなくていいように今！この場で覚えよう！」という気持ちを持つことで、記憶力がアップするように思います。

そして、近くにある派生語も見ておきます。似たような形の単語を毎回調べるのは正直嫌になります。だから普段から派生語や周辺の単語をチェックしておけば「前見たことがある！」とすぐ受け入れられるので、後日調べる手間も減少し、効率よく学習できます。

2. 単語から直接、事象や行動をイメージする。

日本語で「リンゴを想像しろ」と言われて、「バラ科リンゴ属の落葉高木樹になる実のこと」と考える人はまずいません。ほとんどの日本人はリンゴと言われたら赤くて丸い果実を想像すると思います。では、外国語の場合はどうでしょうか。僕はドイツ語の文章を読むときやドイツ語で会話をする時、日本語を通さず、ドイツ語から直接、場面や物をイメージし、イメージから直接ドイツ語にすることを意識しています。日本語を使わないという意識を持つようにしてから会話能力が上がりました。

共通して言えるのは意識を変えるという事です。覚えようという意識、ネイティブのようという意識。そして、意識という面で、日常の何気ない一言から外国語を使うようにしています。



小さい子がいきなり会話できないのと同様に、習い始め、使い始めは「おいしい！」とか「すごい！」とか、簡単な表現から入り、だん

だんと会話に必要な単語・文法を、上記の1・2を使って覚えるのが僕のやり方です。

私のフランス語勉強法

経済学部2年 加藤奈央

外国語を勉強するとき、リスニングに苦労することがよくあります。意味のわからない言葉で、早口にまくし立てられる。その上、日本語にはない音もたくさん出てきたりする。日本語とはやっぱり違うなあと、しみじみ実感します。

ここでは、そんなリスニングについての個人的な勉強法を紹介してみたいと思います。

「リスニングは、一応はただ聴いていればいいだけだから、こんな気楽な勉強はない。」そう思って、大学でフランス語を勉強することになった私は、フランス語のCDを手に入れると、とりあえず暇なときにひたすら漠然と聴いていました。さて、それでフランス語のリスニングの力は付いたのか？

結論から言うと、私はCDを聴いただけでは、フランス語を聴きとれるようにはなれませんでした。もちろん、全くの無駄だったわけではありません。聴きとれる単語も増えるし、なんとなくフランス語に親近感を感じるようになります。この違いは大きくて、肩の力を抜いて、気楽にフランス語が勉強できるようになりました。「ふむふむ、なるほど」と余裕で聴きとる、さらにいえば、頭をフル回転せずにほとんど推測なしで聴きとる、というレベルまでには達しませんでした。フランス語に対する恐怖心とか威圧感のようなものが激減しただけでも、その後のフランス語の学習にすごく役立ったと思います。

1枚のフランス語のCDをほぼ完璧に聴きと